

FINAL成人向け
ADULT
R18
ONLY
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ひたぎファミリー
後編

後編

ひたぎファミリー





しー忍!?

ひたぎファミリー
後編

story by 多角獣 drawing by 芥川まんぼう



お前様は
ずいぶんと

ツンデレ娘には
他人行儀なんじゃな



すず



さ...さんぎゆ

なにがじゃ?

いや
お前がひたぎを
止めてくれたんだろ?



は?

他人行儀?

ひたぎに
対して?

僕が?

そんなことないだろ?



お前様よ



わい

わい



これが
妹御でも
同じ行いを選んだのか？

お前様は
ツンデレ娘と
一緒になる気
なんじゃろう？

ま
ま
あ
あ
将来的
にはな

歯切れが悪いの

そう言われても
こればかりは
僕一人の問題じゃ
ないからな



ふんっ

よく言うの



おい忍？

我が主様よ

儂が
同じように
懇願し狂乱したら

お前様は
どうする？



え？

この状況でなんで
二人を仮定する？





なんの真似かと
問われれば

お前の真似
かな

は？

えっと

まずだな
戦場ヶ原

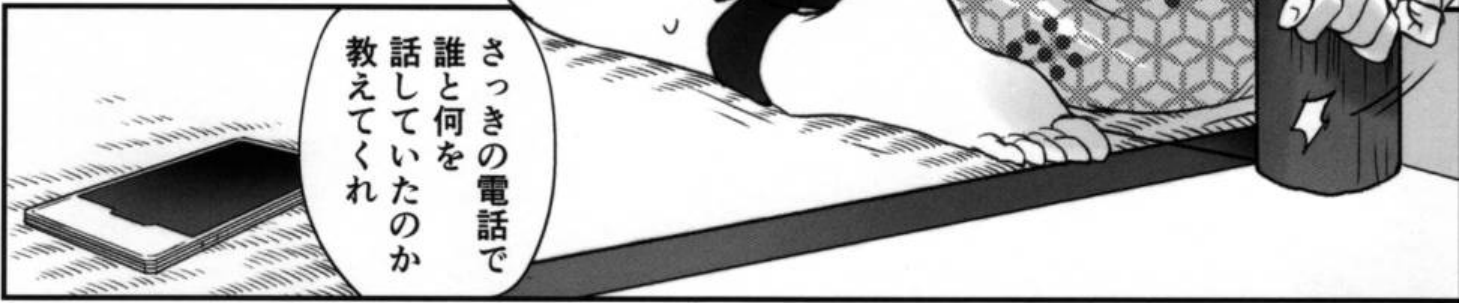
その拘束に深い意味はない

僕にそういう趣味はないから
安心してくれ

質問に答えて
くれたら
すぐにでも解く

質問？

ああ



さっきの電話で
誰と何を
話していたのか
教えてくれ



電話？

電話

ふざけてるのは
あなたでしょう？

阿良々木くん

そもそもどうして
阿良々木くんが
ここに居るの？

分かっているのかしら？

これって犯罪よ？

誰と？

なあ戦場ヶ原

ふざけるのは
やめようぜ



阿良々木くんが
どこで誰から何を
聞いたのかわからない
けれど

それ以上 人の家の
事情に首突っ込んで
くるなら



もしかして
家に戻って
きたいとかか?

それとも
お父さんと
やりなおしたい
とか



……



ん?
あれ?
言ってることが
おかしいぞ
そもそも?

お母さんからの
電話だったん
だろ?



戦場ヶ原
僕は誰で
お前のなんだ?

は?
なんなの?

もしかして
阿良々木くん
記憶喪失なの?

いいから



気管ごと
声帯抉り取って
黙らせるわよ
黙るって言うか
それ死ぬぞ!!
黙るには違くない
けれども!!

とうるか
完全におかしいぞ

会話が噛み合わない
——じゃなくて
認識が噛み合っていない?



阿良々木暦
私の
元クラスメイト

え!?



?
違うの?

あなた
阿良々木暦くんよね?
兄弟かなにか?

いや
僕は
阿良々木暦だ
なあ戦場ヶ原
お前どうして
ここにいますか?

どうしてって
——卒業旅行?

倒れた時 頭でも打ったか

そのせいで記憶喪失に？

いや
そんな音はしなかったし
縛るときにも怪我は無かった

あ

忍の
エナジーとノイズの
影響？

いやー！

となると
怪異の可能性か？

追い詰められたストレスで
また蟹の時のように？

だが…

いや…

怪異が絡んでいるなら
忍が気づいているはずだ

つまり

つまり

僕の結論はこうだ

戦場ヶ原ひたぎは

記憶喪失

のフリをしている

間違っていないの
と思っ

話したくないのだ

なにがあっても

じっあがいてでも

隠し通す覚悟なのだ

でも

僕も同様だ

知りたい

助けて



そこのおどろき!

嘔吐!?

ガンッ

ぐんぐんぐん

わ

忘れたふりはもうやめようぜ

きもっ

マジで記憶喪失だったらどうしよう



僕とお前って

恋人だよな



ならどうすね?

どうすねはいい?

なあ 戦場ヶ原



戦争をしましょう

いつもの戦場ヶ原なら僕に勝ち目はない

だが



今回だけは絶対に負けられない

だ

戦場ヶ原
お前の両親って
なんで離婚したんだ？

さすがに
離婚していいとは
言ってこないハズだ

……仲が悪くなった
からよ

どうして？

でも
僕が知ってる
話とは少し違うな

変なことを聞くのね
阿良々木くんの
ご両親は家でも外でも
常にラブラブ
なのかしら？

いや
それはない

不気味なことを
言わないでくれ

同じよ
戦場ヶ原家は少しばかり
悪くなりすぎただけ
今時離婚するなんて
珍しくもないわよね

恋人が何気なく別れるように
親になったって
別れるものは別れるでしょう？

ねえ
阿良々木くん？

かもな

質問に答えたわよ
さっさとこれを解きなさい
今なら
訴えるだけで
許してあげるわ

無条件じゃないんだ
拘束されて上目線って
絶対長生き出来ないぞ

なら
阿良々木くんが
間違ってるのよ



誰かから聞いた話によると

戦場ヶ原

お前のお母さんは
お前が中学の時に
宗教に嵌まった

いわゆる新興宗教
ってやつだ

離婚の
重大な原因の
一つは

戦場ヶ原
お前を

教団幹部に
差し出した
ことだ



お母さんは

ザッ

助けてくれなかった



助けるどころか

受け入れる事を
強要した

ザッ



お前はついこの間まで

自分が我慢すれば
もしかしたら両親は
離婚しないですんだんじゃ
ないか——そう
思っていたんだよな？

今も
この状況も同じ
じゃないのか？



お前が一人で
抱え込んで上手く
いくのか？

一人で解決しようとして

その結果が
蟹じゃないのか？

ひたぎは
嘘がバレていると分かっている

僕はひたぎが嘘をバレている事を
分かっているのを分かっている

とんだ茶番だ

でもそれが
戦場ヶ原ひたぎだ

これが
最後の質問だ

蟹に出会って
貝木を含めて五人の
霊媒師に相談したって
言ったよな

貝木は除外
するとして

残りの四人

その四人の中で
両親に内緒で

お前一人で
会いに行った相手はいたのか？

あつたんだな

そいつはお前に
何を

やめて!!

いくら阿良々木くんでも

言っちゃ悪いことを
言ったのは
自覚してるよ

でも

これでお前の
記憶も戻ったよな

最低ね

訊いてもいいかしら

だな

いいよ

いつから
そう
思っていたの？

正確な日付は
覚えてないな

でも
僕たちが
つき合いだして
そう日数は経ってない
おおよそ一ヶ月以内
だよ

ある日の夜さ
テレビで自称教祖様や
霊媒師の番組を
やってたんだ

悪辣すぎる
スパイラル

そういう連中が
信者や相談者を
なんて話を

だから
もしかしたら
と思った

言っている事と
悪いことがあるわ

思ってしまった

当時の僕は
自信が無かったのだ
戦場ヶ原ひたぎを
受け入れた事に

選択に

疑念があった

嫌だったんじゃない

むしろ逆だ

なにせ

初めて告白され

初めての彼女だ

言い訳するわけじゃないが

優等生で
美人で
スタイルも良い女子が

僕のような人間を
好きになる理由が
僕には皆目見当が
つかなかったから



まあ

その辺においては
今もそう変化は
ないのだが

あと
訊いておいてなんだけど
ぶっちゃけさっきまで
考えた事があった事実
そのものを忘れてた

最低最悪ね



で

最低最悪な僕が
知りたいのは
さっきの電話の内容だよ

昔じゃなくて
今のお前の問題だ

お前がそこまで
追い詰められているのが
何なのか

僕はそれが知りたいんだ

阿良々木くんは

どっちの方が
都合がいいのかしら



私から別れを切り出すのと
自然消滅するの

そうくるか

まあ
そう切り出されても
仕方ないことを
言ったし
しだし

とりあえず
そいつは後で考えよう
今は電話の事を
教えてくれよ

戦場ヶ原

話してあげる
だからこれ
いい加減解いて
くれないかしら

逃げないわよ
もう

……

男が
出来たのよ

男？

言葉通りよ
お母さんに
恋人ができたらしいわ

お母さんに
恋人が出来た

それがショックの原因なのか？

自称ファザコンの戦場ヶ原すれば
お父さんが裏切られたような感覚なの
だろうか？

あと例の宗教団体

ん？

それは…おめでとう？

そうね

本人にとっては
おめでとうありがとう
なのかもしれないわね

でも
こっちからしたら
おめでたいとしか
言えないし
報告されても
ありがた迷惑よ



向こうからすれば
もう価値がないんでしょ
お父さんと離婚して
お金も資産も無い
一信者なんて
幾らでも代わりが
いるでしょう——

今度は本当に
おめでとう
だよな



脱会してたわ
しゅん

え？
なんていうか
…できるもんなんだな
正直一番驚いた



……
違うのか？
お母さんね

その男のお陰で
宗教をやめられたん
ですって
吐き気がするくらい
嬉しそうに言ったのよ



今自分がどれだけ幸せか
以前の自分がどれだけ
間違っていたか

同じよ
宗教に嵌まり
だした時のお母さん
そっくりの喋り方

結局
宗教から男に
依存対象が移っただけで
なにひとつ変わってない



!?

阿良々木くんとしては
私から別れを切り出す
のがいいかしら？



それよりも



でも

教団にいるよりは
マシ
と言うか
安心というか

だろ？

かも
知れないわね

なら取りあえず
良かったじゃないか



それとも
男として自分で
言う方が
プライドが保てる？

もしくは
徐々に疎遠になって
友達に戻るのがお望み？

うーん
どうしたものか

まあ
僕としては

阿良々木くんと
しては？

どうしても
別れなきゃ
いけないのかと
訊きたい



ガッ

お前っ
言わせろ
よ！



バカなの？

いや



バカなの？

いや普通に
別れたくないんだが



何を
言っているの？

確かに
僕は謝っても取り返し
つかないことを
言ったし やったよ

だからお前が
別れたいと言うなら
本当は
僕に拒否権は
ないんだろうよ

でも僕は

お前と別れたく
ない

戦場ヶ原
お前は肝心なことに
答えてないよな

馬鹿なの？

電話の内容は
教えたわよ

それは確かに
話してくれた

でも
お前が取り乱した
理由はなんなんだ？

お父さんが再婚する
のならともかく

お母さんに
男がいる

—それだけじゃないよな？

それだけで
あそこまで
取り乱したりは
しないよな

ひたぎは
何か隠している

結局
娘は母親に
似るのかしらね



それを解決したいんだよ
僕は

私もお母さんのように
何かがきつかけで
宗教とかに
嵌まるかも知れない
は!?
何で
そうなる

飛躍も何も
事実証明
してしまったのよ
今日!!
今!
さっき

飛躍しすぎだろ

お母さんは宗教に頼り
抜け出す為に男を利用した
私は
蟹に縋り
不安を
打ち消す為に
あなたを
利用した

忘れたのかしら？

私がどうして
ここに来たか

どうして
阿良々木くんを
連れてきたか

もしかして阿良々木くん
記憶喪失にでもなった？

ひたぎが取り乱したのは

母親を乗り越えようとして

母親と同じ手段を
使っていた事への
動揺か

だから

一緒にいるのは
駄目よ

別れれば

みんな幸せに
なる

万々歳ね

違う

戦場ヶ原

そんな
都合の良い
結末はないんだ

それは
誰か一人が
不幸になる結末だろ

お前
意固地になってる
だけなんじゃないのか!?

お母さんと同じ事を
しないように逆を
行こうとしてるだけ
じゃないのか？

一人で背負って
一人で抱え込んで
そんなの——



阿良々木くんには言われたくないわ



私には話さないし誰にも話すつもりはないって以前言ったわよね

しまった
納得してしまった

それはつまり

カテゴリが違うというか

自分だけは特別扱い?

いやいやいや



な
な
なんかさっきより怒ってないか?

阿良々木くんだって背負い込んでいるじゃない

僕が? 何をだよ



忍ちゃん



あ

!!



じゃなくて忍の事は完全に僕の責任なんだよ!

言うなら10:0なんだ!

僕が負うべきであって他の誰も悪くなく

!?

にっ



僕は
そうは思わんがな

僕は話しても
構わんと言っておるのに
お前様が意固地に
なっておるだけじゃろう？

出てくるなり
何言い出すんだこいつ！？

そもそもこいつ
なんで出てきたんだ？



戦場ヶ原の味方？
……

いや

それはない

とまると

僕への気遣い
なのか？

そつなのか
忍？

どうなんだ



ギョ

ひっ！



昔話でも
しようかのー

え
おい

ちよつと待て

僕はまだ
納得してないぞ

僕が話したいから
話すんじや

お前様に聞いて欲しいわけでも
ツンデレ娘に話したいわけでも
ないぞ

そう

独り言じや

一年前は僕にとっても
忌まわしい重大な出来事
じゃったからのう



明確に覚えて
おきたいんじゃないよ

僕とお前様の
出会いから
元委員長の乳の話
まで

ほわ
ほわ

つちよつ
なに言ってるん
お前っ!?

最後!!
それ言わなくてもいい部分
だよなそれ!!



僕が話す

え!?

あ
阿良々木くんは
本物の馬鹿なの!?



忍の意図は
わからないが
話の展開上は
そういう事になる

なら——尚のじ



……



ニヤ

ニヤ



忍が
話せば

ひたぎの
カードが
一枚無くなる
って事になるのか

あ

そうか



ガタン

フン



かもな



戦場ヶ原!!

僕と忍の
出会いはだな

じゃあ
いくぞ

えーっと

おいっ!!



キャリッ

逃げないって
言ったよな!!

てか



今さら
逃げるか!?

はたはたはた

はたはた



くそ



ってええ



ありがとな

忍

ぶーっ

っ



……



しゅわっ

不機嫌すぎんだろ

礼くらい
言わせろよ!!



たっ



たっ

はま

はま

たっ



おいっ!!

素足で!?

本気か!?



ぎゅ

たっ



はま

たっ



戦場ヶ原!!



痛っ

おい



各階の非常扉は

外からは開かないだろう

完全に袋小路なんだが...

なに考えてるんだ?

!?



私はここから
飛び降りるわ



ひま
昇ったら!?



それ以上昇っては
駄目よ!!



阿良々木くん
ここまでよ!



なあ
戦場ヶ原!!



むしろ僕の方が
お前に迷惑をかけてるよな

事ある毎に
自分勝手に動いてるのは
僕だし

動く割に
上手く解決できてない



なにか
あるかもしれないって
言うけれど

それを言ったら
僕も同じだろ!?



部屋に
戻りなさい

宿代は前払いしてあるから
朝になったら一人で帰って

だから頼りにならないって思うのも分かる

でもさ

僕はお前の力になりたい

きっと僕の親や妹達も

一步

それが嫌なのよ

迷惑ってことか!?

違うわ

阿良々木くんの家族に迷惑なんて思ったことないわ

じゃあ

何が嫌なんだ

ゆっくり

音を立てずに

一步

阿良々木くんは甘く見ているのよ

家族が

あると思っていた絆が

小さなきっかけであっけなく壊れることを

甘く見てるのよ

なら

どうしてお前は僕とつき合おうと思ったんだ?

将来を見据えていたのはひたぎの方だ

つきあい始めた当初は正直引くくらい先を見ていた

大丈夫だと
思ってたのよね

でも私は私を
勘違いしていたわ

過大評価していたと
言うべきね

僕にはそれが
勘違いな気がするけどな

阿良々木くん
ご家族には本当に
感謝しているわ

幸せな家庭って
こういうものなんだって

もし私の家族に
何も起きていなかったら――

絶賛されるほど
模範的な
家庭だとは
思わないぞ？

ちょっと前までの
僕と親は
険悪そのもの
だったし

妹達とだって

近付いた分だけ

知ってるわ
阿良々木くんが
一人で荒んで
いたのは

――そう
言われると
反論できない

声を小さく

でもつまり
それって幸せなのよ

両親が普通に怒って
文句を言って世話を焼いて
子供の話を半分も理解
しないのが普通なのよ

そっと

阿良々木くんの家では
ご両親が大喧嘩したり
互いが無言になったりしたことは
なかったんじゃない？

まあ
それはなかったな

そっと

気付かれな――

知ってる？
阿良々木くん



家族って

壊れたら
元に戻らない方が
圧倒的に多いのよ

赤の他人の方が
まだ修復しやすい
でしょうね



駄目だ

おい!!

戦場ヶ原!!

こいつ本気だ

本気で——

だから

だから
阿良々木くん

あなたを

あなたの大切な
家族を巻き込むのは



ひたぎぎ!!

まよっ!?

ぐっ





こ…暦？



驚いた



今日は驚きの連続だ



ゴ

し
死んだのかっ

思っ

思っ
たじゃなっ

なにやっ
て

るのよっ

ゴ

ゴ

それを
お前が言うのかよ

こて

声が出ない
気管——いや
——肺か？

視界も変だな
これって左目か
見えないのか？

手は……動かないな

足も……駄目か

涙を拭うことも
声を掛けることも
出来ない

いやそれより
こし

宿の人に
見つかったら
シヤレにならないぞ

せめて
物陰に移動しないと

ひたぎに伝えないとだが
どうやって――

あ
あ
声出た

暦?

僕は

一応吸血鬼属性は
残って……るから死な
……ない

知ってるわよ!

でも全然目を
覚まさなかつたじゃない!!

全然?

は……はは……

一体どのくらい
気絶していたんだ
僕は?

このレベルの痛みは
久々だったからなあ

馬鹿ね
本当に
馬鹿だわ

怪我はないのか？

覚えてないの？

階段から飛んだ
先の記憶が
あやふやだ

着地の瞬間に 曆が

私を上へ
放り投げたのよ

あのさ

ひたぎ

僕はお前に
怪異絡みだけじゃなく
普通の高校生として
助けられてるんだ

たぶん

いや間違いない

つき合っていないければ
真面目に勉強することも
進学する決意もなくて

つまり
それはだな

両親や妹達との関係が
今ほど円滑で親密で無いことを
意味するわけで

だから

その

だから私は
2メートルほど高さから
落ちたのと変わらないわ

大丈夫よ

そっか

良かった
本当に良かった

あ

上手く言えない

それって
まだ私が欲しいってこと？

跳んだな

飛んだ後だけにか？

……は

は？

しかも欲しいとは
また直情的な
表現を

返答しづらいじゃ
ないか

い…… YES

どうして僕は
毎度本番で
決まらないんだろうか

何か言ってくれよ

反応されないのが
一番怖いぞ

ドキ
ドキ

も
もしかして

重いですか？

緊張のあまり
敬語になってしまった

もしかして
自覚が無いの？

じ
自覚ですか？

冷静に
自分の行動を
振り返ってみよう

1

エイ
ひたきの
トラウマを
抉った

2

イヤ
シヤア
シヤア
別れたくない
と言った

3

逃げたので
追いかけた



死め決意を
したので
無理矢理助けた



結局
自分が死ぬ騒ぎで
迷惑を掛け



こんな男は
僕が
女だったら
絶対に
つき合わ
ないぞ!!

そこまで落ち込むことはないわ
精々
しつこくてねちっこくてうざったいから
動けないのをいいことにこの場から逃げて
血だらけの変態が倒れてますと
通報しようかしらと考えている
くらいの重さだから



ぐっ!!

追い打ちされた



考えが
甘かった
現役を退いた
と言えど
こいつは
戦場ヶ原ひたぎだ

嘘よ



十分の一は
9割本音かよ
1割なら
内容を変えずに
推敲できるわね
10割でした!!



あ?
視界が
広がっている
もう
指も
動く
すいぶんと
回復が早いような
なんでだ?



これじゃあ
まるで
吸血鬼性が
上がっている時
みたいな
あ
上がったのか
あの時
まあ
それはそれで
置いておくとして
置いて欲しくない
出来れば
訂正して欲しい



とんでもない



このまま
別れたい？

死のうとするような
重い女は嫌いに
なったかしら？



頭で分かっているでも
理解はしていない
そんなところ
かしら



？
すまん
意味がよく分から



不思議だ

なにが？

追わなくちゃと
思ってた

ひたぎは逃げるだろーと

落ちながらも
追わなくちゃと
漠然と思っていた



そりゃそうだろう
紐無しバンジーを
体験したんだ

僕と違って
死んだ気分にも
なつたらう

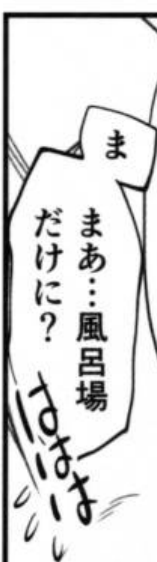
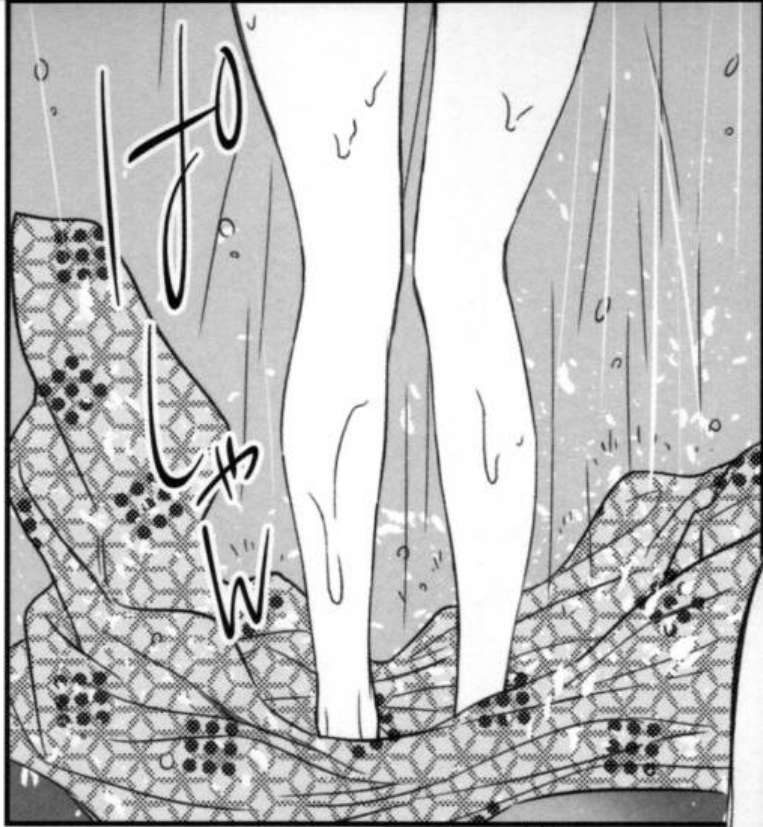


暦が



死んだと思ったわ





まあ そんな事されたら 普通は なります よね？

徐々に大きくなってるわね

さ...さすが 元陸上部 なかなか 新鮮な感覚 じゃないか

おうっ!?!
にっ 握られてる... お尻に!?!

ふむ

おきっ

ちゅっ
ちゅ
ちゅ

おろろ
浴場だけに?
遅っ ツッコミ
おきっ

ちゅっ
ちゅ

あ
あ
あ





思った以上に
恥ずかしいらしい

ぞくぞく
ぞくぞく
ぞくぞく
ぞくぞく
ぞくぞく

!!
ガ
ク
ン

ちよっ

やっ

はっ

はっ

見たいんだよ

…変態!!

だめって…言ってる

でしょ

だ

だめっ

やっ

はっ
はっ



同じ方向を

向かっています



鏡のひたぎが
僕を見る

鏡の
ひたぎを見る



向かっています

私が吸わせて
しまったのね

—あ

そうか



もう

吸血鬼の能力に
頼らないように
する——と
あの時ひたぎに
告げた

—のに

再び

こうして

呆気なく

僕は
吸血鬼性を
上げてしまった



忍がやった
という言い訳は成り立たない



むしろ忍は
僕の無茶を予測して
対処してくれたのだ

唐突に不機嫌な顔で
噛みつかれた

その意味に
気づかなかったよ



ひたぎは
自分を助ける為に
僕が忍に頼んで
血をすわせた
と——

そう思っている

それは
おおむね正しい

怪我の治りが
早いのも

性欲が
暴走気味なもの
も
気付かなかった



でも
そうじゃなくても僕は
必要なら
忍に泣きついて縋り付いて
拝み倒してでもそうしたよ

つまりさ
結果は今と
変わらない

間違っているのは
ひたぎが感じている
責任だけだ

ひたぎが
謝ることなんて
なにもないんだ

むしろ

そう

むしろ
謝るのは僕だ

何故？

その…僕は
言っちゃいけない
事を言った

そうね

問
髪

だから

奇遇ね

きんごう？

その件に関しても
謝りたい事があるのよ

なんで？

なにを？

確かに暦の言う通り
私はショックを受けたわ

でも

暦と私の認識は
違っていると思うのよね

違うって？

なにがだよ？

私が
ショックを受けたのは
話の内容じゃないわ

え？

意味がわからないぞ？

内容じゃない

……ならなんなんだ？

当時の暦が
私の過去を想像
したように

当時の私も
当時の暦がそのくらいの
想像していると
想像していたとは
思わないの？

想像して――

いた!?

何故だ!?
僕って
そんな男に
見えていたのか!?

いや実際
勘ぐっているん
だけどさ

でも!

普通思つか!?

当時の暦は
童貞だったでしょう?

は?



男子ってそういうの
妻く気にするじゃない

彼女が処女なのか
とか
過去に何人つき合った
相手がいるだとか

うおおおおおおおおおっ!! 恥ずっ!!

偏見に充ち満ちた考えじゃ
ないか? でも!? 僕は見事に
セオリ―通りに想像して
セオリ―通りの
勝手な結論に至っていたと
いうことなのか!?

私が詐欺師連中に
どうされたか

もう一度
訊いて

は?

何言い出すんだ
こいつ

いやだ

訊きなさい

どうしても?!

どうしてもだ

どうしよう?

どうしようって……

それが
私が謝らなくては
いけない理由よ

ああ
言いたくない事を
僕に言わせた——と？

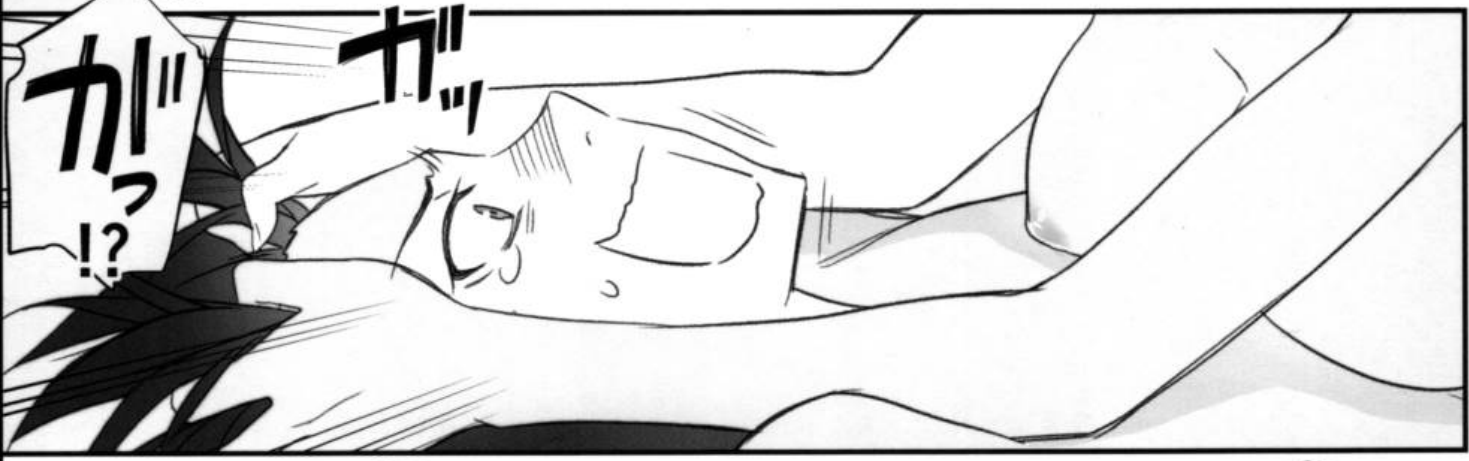
でもそれって
違わないか？

僕は
ひたぎを
助けたくて言ったし

ひたぎが
記憶喪失のふりをしたのは
僕は守ろうとしての行動だ

違っていてもいいわ
私が謝りたいのよ

いや
その件に関して
僕は完全な
加害者であって



加害者——ね

な
なんだよ
そうだろう？

やっぱり

あの時自分が
どんな顔をしていたか
気づいてないのね

顔？

あの時？

え？
できる限り
感情を出さないよう
平静を務めたと思うのだが

ごめんなさい

ぽたぽた

ぽたぽた

あの時

一体僕は
どんな顔をしていたの
だろうか？

どんな口調で話しかけた？

思い出せないし
知りようもない

ただ

あは

あは

二つ分かった
ことがある

ひたぎに飛び降りるとまで
決意させたのは僕だという事

もう一ひ

分かったと言っつより
あはあは
言っつより

僕は
戦場ヶ原ひたぎが
好きだ



これから一緒に居たい

以前こいつが言ったように
好きでいつづける努力をしたい

—し続けたい

ん

ごめん

本当に
ごめん



キミ
ちゃん

私は

一人で詐欺師に
会った事はないわ



気になって
いたんでしょう？

私は暦とするまでは
処女よ
ちゃんと自分で
確かめたでしょう？

私を女にしたのは
間違いなく暦よ？

どうでもいいけど

どうでも
いいんだ…

重要？

想像してみる

ひたぎが真実を言っている

想像してみる

ひたぎが嘘を言っている

何が変わるだろうか

何か分かるだろうか

綺麗事を取り外して
虚栄心を取り除いて

本当の僕は
どう思っているんだ？

あいたい

ではなく

どうあるのか

ごめん
分からない

でも

でも？

知りたいと
思ったのは
本心だよ

否定は
しない
僕のひたぎに対する感情は
そんなに綺麗なものじゃないから

よかった

？
いいの？

ええ

だって



正義マンは
許容できて

聖人と一緒に
居たいとは思えないもの



汗の味

ん

ん

ん



なにが？

え？

マジな声だな

それは
ダメ

は

は



大丈夫か?

今までは明らかに違う
絶頂き方なんだけど

そこまでの事はしてないぞ?



...



少しは察しなさい

恥ずかしいじゃない



ん

ん

ん



♡



まじゅっ



暦…



はっ

はっ

はっ

あのな…

そんなこと言われたら

ささの

暦で…さっ

さっばさ

なんだから

ちゅるん

ちゅるん



ちゅるん

もしかして奥まで入れすぎたか？



ほらっ

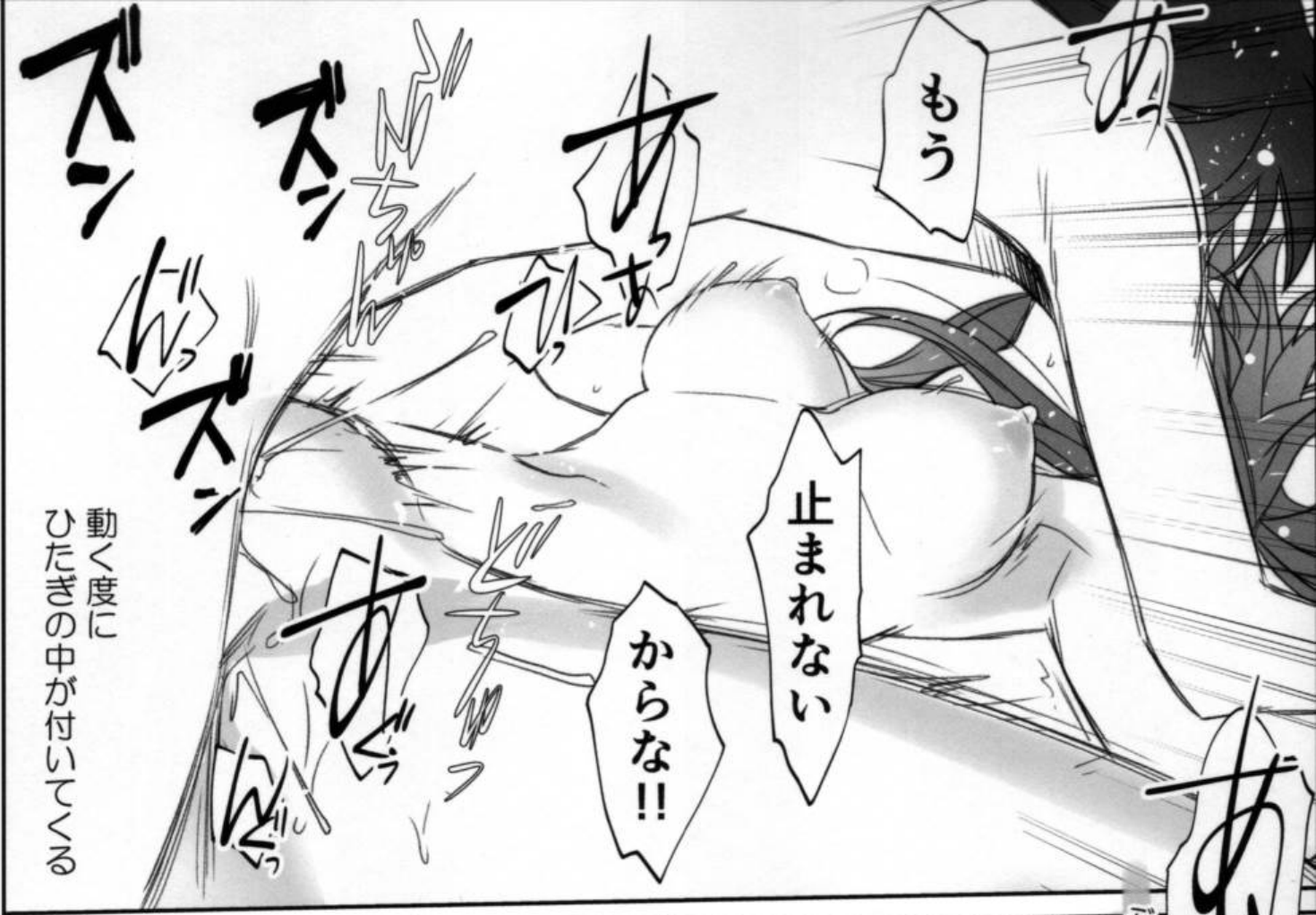
ちゅるん

待ってそのまま



これじゃお前

苦しいんじゃないのか？



動く度に
ひたぎの中が付いてくる

もう

止まらない

からな!!

ぶつかると

触れる

離れる

もっと強く

もっと速く

もっと深く



ひたぎーっ

あーっ

あーっ

O・ヘンリーの
「賢者の贈り物」

あの二人は
互いにすれ違つと
分かつていたら

髪と時計を
売らなかつたのだからか

——たぶん売つた

お母さんの事

お父さんに
相談してみる

…

遠慮なんて
いらなんだ

え？

うん

する必要も
意味もない

僕を道具に
使って構わない

何故なら
きっと僕も

僕もお前を
道具や言い訳として
使う時が必ず
くると思う

いや来る

これからも一緒に居れば
必ず来る

だからお互い様
なんだ

ただ
そうするべき時が
お前の方が先に
やってきたって
だけなんだよ

そうやって
すぐ相手の気持ちに
なろうとするのね

そうか？

ええ

だから
気をつけて

そうなんだろうか

僕はひたぎの気持ちを
察しているようには思えない

現に今回だって
僕の察しの悪さから悪化の一途を辿って
辿り着いた結末と言えなくも

何を考えて
いるの？

え？

考え事を
していたでしよう？



あー

いや
なんだか今回の事って

「賢者の贈り物」
みたいなもんかなって



良かれと
思っ互いに
すれ違った
—みたいな

お互い
じゃなくて
三人でしよう



あと
「賢者の贈り物」
と言うより
「愚者の押しつけ」
よね



愚者の押しつけで
いいじゃないか

頭の良い奴は
たぶん恋人なんて
作らないし

強い奴は家族なんて
必要としないだろう



こんなにも
迷惑で 面倒で 厄介で
難解で 不利益で 不合理で
多事多難な関係など

損得や利益で考えたら
無駄で無益以外
なにもでもないだろう



そう

家族ってたぶん

「愚者の押しつけ」なのだ

END

あとがき

多角獣です。

まんぼうさんからひたぎファミリー後編のネームを見せて頂いたときには、その紙の厚さに（うわぁ……なにこの量……）と自分の責任を棚上げして他人事のように驚いてしまいました。

手元の原稿データを調べてみたらこの連作、ブラオコ最長でした。

ひたぎヴァンプスよりも長いです。原稿用紙で150枚オーバーです。

ちなみにヴァンプスは100枚弱なんですが、書き上げた直後はその3倍あり、その後推敲、圧縮したので、たぶん自分の感覚としては圧縮前と圧縮後がごっちゃになって「まだヴァンプスよりも短いから大丈夫……だよな」という結果になったのではないかと……まあ、なんの言い訳にもならないんですが。

そんな無茶な話を描いてくださったまんぼうさんと、好き勝手な長さや内容にお付き合いいただいた皆様、本当にありがとうございました。

少しでも楽しんで頂けたなら幸いです。

多角獣

ども、芥川まんぼうです。

今回、多角獣くんから届いた原作を読んで、ちょっと迷ってしまいました。ひたぎを、飛ばせてしまっていいのか。

ひたぎを強い女として好きな人もそんな弱さはひたぎらしくないと違和感を持つ人も、いる、と思ってしまったからです。

阿良々木くんの正妻ぶりに見る凛とした賢く強い姿。

で、ひたぎの事をあらためて追って考えて気づきました。ひたぎが強くあれるのは

「外」から来た「敵」に向かう時だけなんだよ。レイプされそうになっても自力で撃退する。外敵にやすやすと打ちのめされたりしない。

蟹に頼ったのは母親との関係を見失ったのが原因で。

「身内」からはこんなにも傷つけられる。脆い。

ああ。って。そうだった。って。

ちゃんと「ひたぎ」が描けていれば幸いです。

芥川まんぼう



Presented by Bloody Okojo

Printed by 株式会社グラフィック様

Website: <http://bloodyokojo.net/>

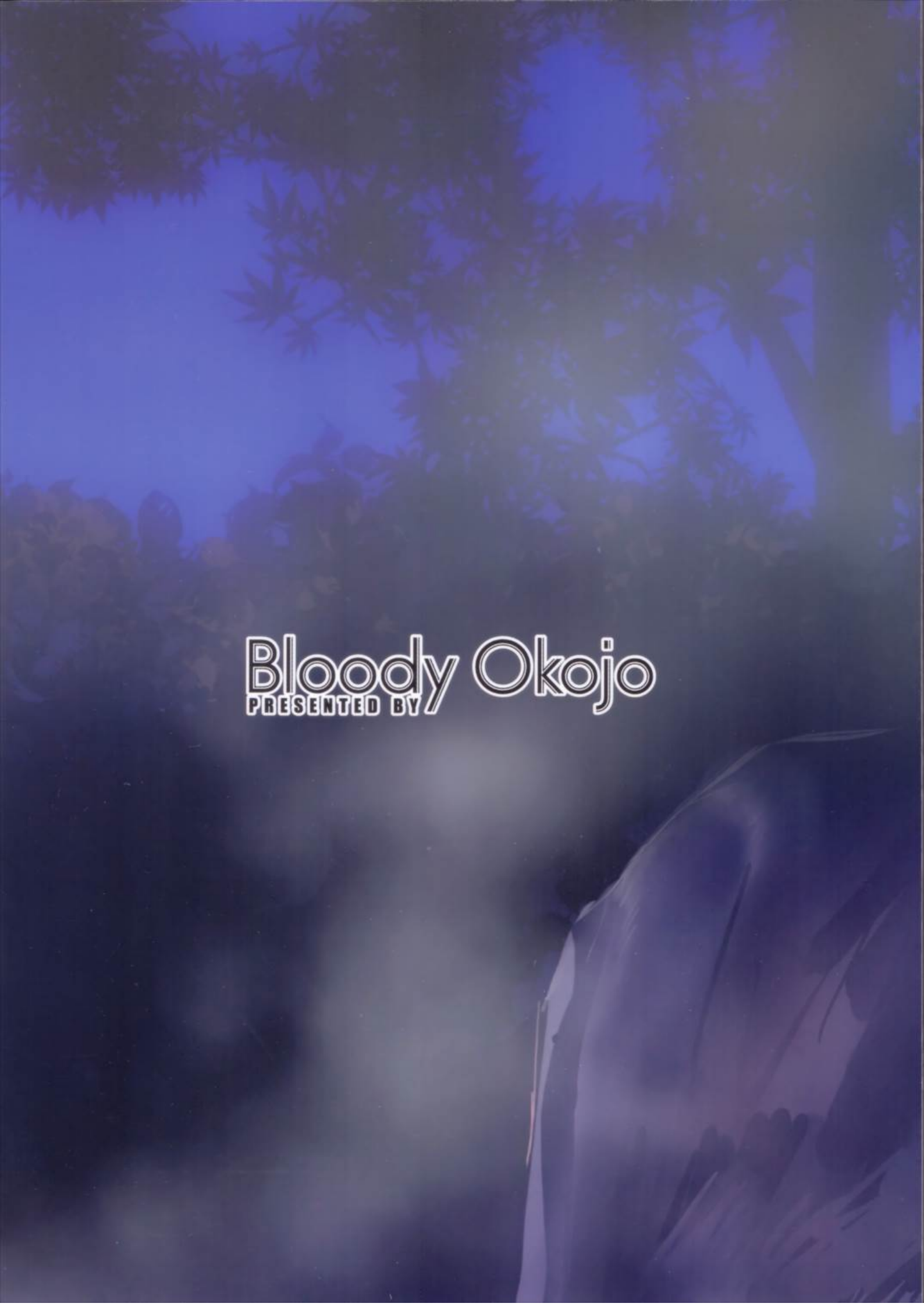
Mail: utc@blowel.sakura.ne.jp

Twitter ID: [bloody_okojo](https://twitter.com/bloody_okojo)



ウタギ
ファンタジー

後編



Bloody Okojo
PRESENTED BY